

東京総合医療ネットワークについて

システム室

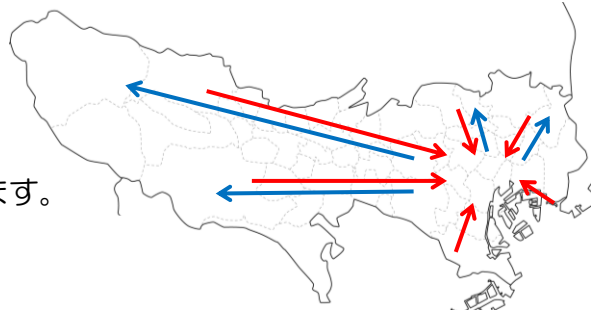
南多摩病院におけるシステムの取り組みについてご紹介いたします。

東京都の地域医療を支援

「東京総合医療ネットワーク」とは、東京都内の病院・診療所等の医療機関が電子カルテを利用して、診療情報を相互参照することで、医療の質・安全性を向上させるものです。南多摩病院では地域医療連携システム（MIO Karte）と接続して参加しています。

なぜ東京都全域なのか

まず、診療・治療を行う都民の動きについて特徴を見てみましょう。緊急性の高い医療は赤い矢印のように都心部の大病院に集中し、回復や慢性的治療は青い矢印のように多摩地区や隣接する他県の医療機関に分散する傾向があります。



このようなお困りごとがあるかもしれません。

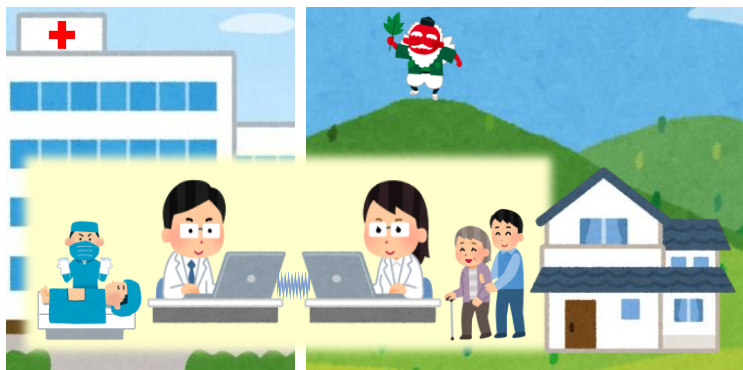


都心部の医療機関で緊急手術を行ったが術後の通院が大変なので地元である南多摩病院に通いたい。



南多摩病院を含む永生会の理念に【医療・介護を通じた「街づくり・人づくり・思い出づくり」】があります。これにもとづいた治療や診療を行うためには、区市町村に限定されない東京都全域をカバーする医療ネットワークが必要になります。解決するのが「東京総合医療ネットワーク」です。

東京総合医療ネットワークの仕組み



各医療機関の電子カルテが連携されると、これまでに他の医療機関で受けた診療や検査の結果を踏まえて、診療を行うことができます。例えば、今まで受診したことがない医療機関においても、電子カルテの情報を開示・参照することで、より正確な情報が共有され、安全性も高まることが期待されます。

検査結果等も共有されますので、重複する検査や投薬を防止することにもつながります。

また医療に関する情報は、患者様自身ではきちんと伝えることが難しいこともありますので、そのお手伝いをさせていただくことができます。

南多摩病院で治療を希望する患者様が、より良い医療サービスを楽しめる豊かな社会の実現に寄与することを目指しています。



医療法人社団永生会 

南多摩病院広報誌

令和元年 11月 第24号

みなみじゅうせい
南十字星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111 (代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1



おしものを洗いすぎていませんか？

～気になる陰部のかゆみ・痛み・おりもの～

婦人科 紀 美和



婦人科部長
紀 美和 医師

はじめに



「おしものがかゆい、ひりひりしみる、おりものが気になる…」年齢を問わず、このようなお悩みで当院婦人科を受診する方がとても増えています。



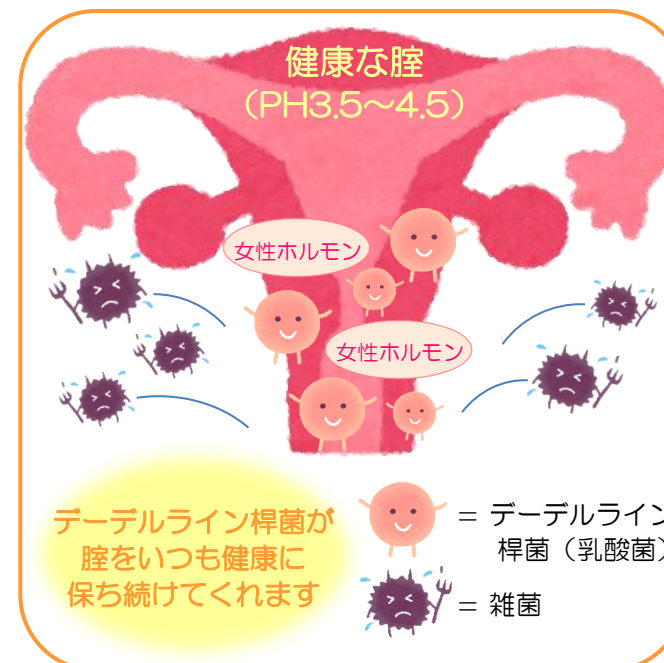
膣炎の女性が増えている！



近年、女性の膣炎が増えていると言われています。その理由は、膣内の自浄作用が低下しているためと考えられています。

性成熟期女性の膣内にはデーデルライン桿菌（かんきん）という名の乳酸菌がいます。女性ホルモンの作用により膣内で産生されたグリコーゲンをえさにして膣内を酸性に保つ善い菌です。酸性の場所では雑菌が増殖できず、これを膣の自浄作用と言います。つまり、デーデルライン桿菌の数が減ってしまうと自浄作用がなくなり、膣炎になり易いわけです。

女性ホルモンが足りない、つまり閉経後などはデーデルライン桿菌が少なく、膣炎になりやすくなります。閉経後の萎縮性膣炎はこれが原因であり、生理的現象であるためどなたでもかかります。



デーデルライン桿菌が
膣をいつも健康に
保ち続けてくれます

= デーデルライン
桿菌（乳酸菌）
= 雑菌

次に性成熟期にあって膣炎になる場合、性行為感染症が原因となる場合があります。膣トリコモナスという原虫に感染すると、トリコモナス原虫が膣内のグリコーゲンを食べ尽くしてしまうため、デーデルライン桿菌が増殖できなくなり、自浄作用がなくなります。カンジダ膣炎は抗生剤服用によるデーデルライン桿菌の死滅が原因となる場合が多いとされています。

萎縮性膣炎

女性ホルモンの分泌低下により発症する病気。膣が萎縮することで出血しやすくなり、炎症によって外陰部にかゆみや痛みを感じることもあります。閉経後の女性や卵巣を摘出した女性であれば、誰もが発症する可能性があります。

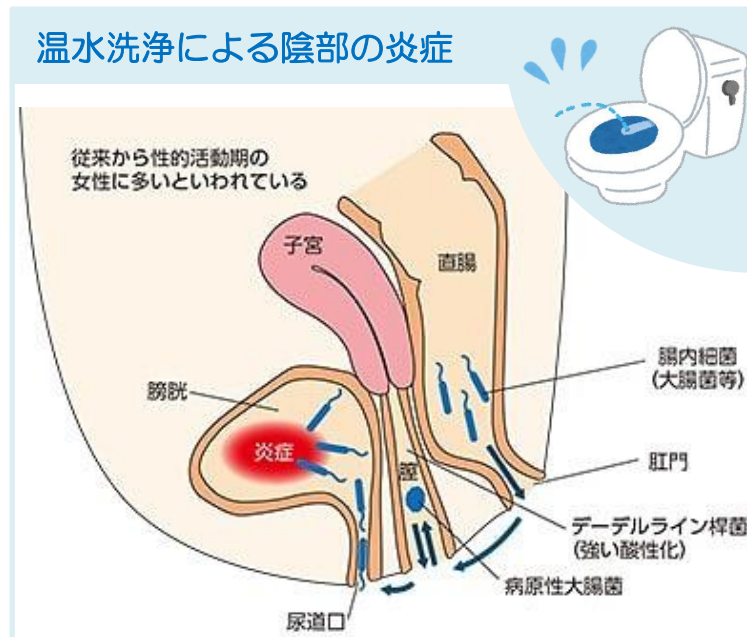


最近注目されていることは、陰部の洗い過ぎが原因の一つであると考えられていることです。
日本の女性は歴史上、腔を温水洗浄トイレで洗うという経験はありませんでした。「洗えばきれいになる」と排尿・排便のたびに陰部をビデまたはウォッシュレットで洗うようになったのは、温水洗浄トイレが発売された1980年以降と考えられています。頻繁に洗浄することにより、デーデルライン桿菌が洗い流されて腔内が中性に偏ってしまい、腔内で雑菌が増殖して腔炎になり、おりものが出やすくなります。

温水洗浄トイレの使用者で、腔内にデーデルライン桿菌を保有していない女性は約40%、さらに腔内から腸内細菌が検出された女性は90%以上であるとの報告があります。本来腔内にはいるはずのない腸内細菌が、陰部の温水洗浄により、腔内に入り込んでしまっていると考えられています。ちなみに、温水洗浄トイレの未使用者で、腔内にデーデルライン桿菌を保有していない女性はわずか8%でした。

また、温水での洗浄により腔粘膜がふやけ、皮脂が流されてしまうため、腔粘膜が乾燥し、ひりひりしてかゆくなると考えられています。

温水洗浄による陰部の炎症



陰部のただれ・かゆみの原因として



おりものシートや紙パンツの常用による慢性的な接触皮膚炎も頻発しています。月経期以外はおりものシートを使用しないこと、尿漏れ・便失禁などの治療を行い紙パンツを控えることなどにより症状の改善を見込めるものも多いです。

終わりに

今回は腔炎・陰部のかゆみ・痛みについてお話させていただきました。他の多くの婦人科疾患についても、診断から治療にいたるまで、丁寧な診療を心がけておりますので、どうぞ安心して診療をお受けください。スタッフ一同、心を込めて対応いたします。



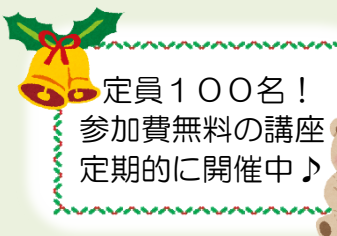
第29回 南多摩病院 市民公開講座のお知らせ

2019年12月7日(土) 14~16時 南多摩病院8階会議室にて

①「認知症」という病気を知ろう！
…脳神経内科 医師 田中 雅貴

② 認知症との付き合い方・コミュニケーションの取り方
…リハビリテーション科 主任 佐藤 雅晃

お問い合わせは 南多摩病院 医療連携室 まで ☎042-663-0111 (代表)



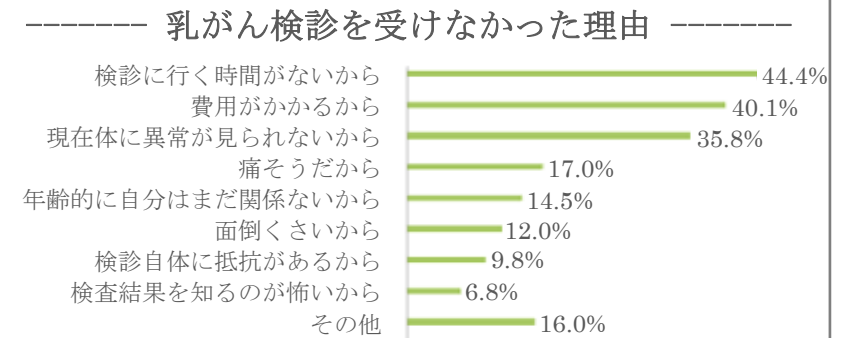
乳がん検診を受けてみませんか？

臨床検査科

日本では、**30~64歳女性の死亡原因第1位が乳がん**です。

乳がんにかかる女性は年々増えており、今では11人に1人がかかるといわれ、2015年には1万3584人の方が亡くなりました。他の先進国の検診受診率が70~80%であるのに対し、日本は未だ40%と低いことが問題となっています。

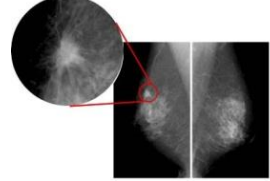
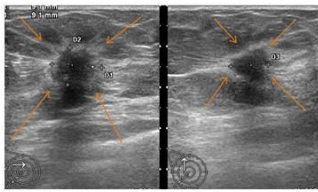
30代後半になると乳がんの発症率は急激に高まり始め、働き盛りの子育て世代である40代でピークを迎えます。
“忙しい”や“面倒くさい”で片付けずに、**乳がんは早期発見をすれば90%が治る**という検診のメリットをまずは考え、大切な家族や自分のために検診を受けてみてください。



マンモグラフィーと超音波、どちらを受ければいいの？

早期発見には、マンモグラフィーと超音波の画像検査が有効です。
特徴と長所・短所を理解して検診に行きましょう。



	メリット	デメリット
マンモグラフィー 	- エコーでは見つけにくい早期の石灰化を見つけれられる 40歳以上の女性、特に閉経後の女性の乳がんの早期発見が得意	- 乳腺が発達している若い世代の乳がんが見つけにくい - 被ばくがある（妊娠中の方は医師が必要と認めた場合のみ受けられる）
超音波（エコー） 	- マンモグラフィーでは見つけにくい小さなしこりを見つけれられる - 乳腺が発達している人や閉経前の若い世代に向いている - 被ばくがないので妊娠中も受けられる	- がんではない良性のしこりも拾ってしまうこともある - 検査技師の技術の差が大きく人によっては、がんを見落としてしまうこともある

当院で乳がん検診を受けてみませんか？

- ★ 申込先：人間ドック担当 ☎042-663-0519（完全予約制）
- ★ 検診場所：3F 人間ドックセンター（メディカルケアセンター）
- ★ 実施日：月曜日～金曜日（祝祭日を除く）
- ★ 検診費用：① 乳腺エコー＆視触診 ……5,500円（税込）
- ★ ② マンモグラフィー＆視触診 ……7,920円（税込）
- ★ ※八王子市に住民票がある40歳以上の方は1,800円（2年に1度）

お気軽に
お問い合わせ
ください♪

